

異常な多雨

ひと月に三五日も雨が降るといわれている奈良県の「天台ヶ原」は、年平均で四八〇〇ミリ降る日本でも最も雨が多く降る地方である。太平洋に突きでた紀伊半島の山脈に湿った南東の気流があたって多雨となり、ブナの原生林にヒノキやモミの巨木がそびえ木の肌や根元は一面に厚い苔で覆われている。

大台ヶ原が「年間の雨量の最多記録をもっていたが、日本列島を襲つた一昨年の記録的な冷夏長雨で、鹿児島と宮崎の県境付近のアメダス観測点『えびの高原』で八四〇三ミリ以上という記録的な雨が降り日本一の座から流されてしまった。

昨年の夏は異常に太平洋高気圧が強く猛暑と少雨となつたが、九三年の夏は逆に寒気が強く中緯度の偏西風帶が例年になく大きく蛇行、南下して居座り雨が偏つて降つたためである。長雨に追い討ちをかけるようになり、史上最多タイ記録の6個の台風が日本列島に上陸し、その多くが九州南部を狙いましたように相次いで襲来し、九州南部の記録を軒並み塗り直すというすさまじい多雨の記

録をつくつた

日本列島に長雨をもたらした豪雨の帶は、中国大陆の長江の流域を中心には停滞し台風の雨が重なって、中国では戦後最悪の洪水に見舞われた。太平洋のむこう側でも日本の九

倍の面積の流域をもつ大河ミシシッピが史上最悪の洪水被害をだしていった。上中流域で4月から6月かけて月降雨量が平年の一・五倍から二・五倍と増え続け、七月にはついに平年の七・二倍もの雨が降つた異常な年となつた。

日本付近で大きく蛇行した偏西風が再び北アメリカで大きく蛇行して南下停滞し、上空の寒気を引きおろしてメキシコ湾からの湿った気流との間で大雨を降らせ続けた結果である。

このように自然はしばしば大きく偏つた雨をもたらしている。雨量の世界一の記録を持つインドのチエラブンジエでは1カ月雨量で九三〇〇ミリ、「年雨量で東京の十八にあたる二万六四六ミリのすさまじい記録となつており、そのうち雨季のカ月だけでも二万四一二ミリと空の水ガメが破れるように降り続いた。世界の多雨地帯で有名なアッサム地

方のすぐ南に位置する山地の南側山裾にチエラブンジエがあり、ベンガル湾からの湿つた南よりのモンスーンで降つた。いまから134年前のことだつた。(村松 照男)